2022年４月１日発行

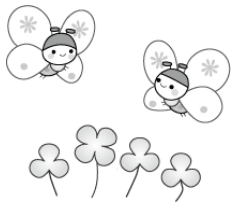
点訳通信 111号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

３月になると、どこからともなく漂ってくる沈丁花の香り。最近あの匂いに出会わないなと思っていたところ、先日、通りがかりの道からフワリと香り、思わず足を止めて深呼吸してしまいました。春は卒業や異動などがあり、この香りがするとしんみりとした気持ちになるのですが、今年は「間もなく暖かな日がやってくる」と思わせてくれて、ほんの少し嬉しい気持ちになりました。　（点字製作係　奥野真里）

【休館のお知らせ】

４月２９日（金）
５月　３日（火）～５日（木）
祝日のため休館します



【点訳ボランティア養成講習会を２年ぶりに開講します】

初心者の方を対象にした点訳ボランティア養成講習会(初級・中級コース)を開講します。周囲に点字に関心のある方がいらっしゃいましたら、お知らせください。

日　　時：(１)初級コース　２０２２年５月１９日～　７月２８日(全１１回)
　　(２)中級コース　　〃　　９月　１日～１２月１５日(全１３回)
　　※初級・中級いずれも毎週木曜日の１０時～１２時。但し、祝日および当館の行事により休みになることがあります。
　　※すでに基礎的な技術を習得されている方は、中級コースから受講していただくことも可能です。
場　　所：日本ライトハウス情報文化センター　４階会議室
定　　員：１０人(講習会前に試験があります。)
受 講 料：無料。但し、テキスト『点訳のてびき第４版』(1540円)は自己負担。
申込方法：申込書にご記入の上、**４月１５日(金) 必着**で、メール(tenji@iccb.jp)またはＦＡＸ(06-6441-1036)で、点字製作係までお送りください。

※詳細は、点字製作係までお問合せいただくか、ホームページをご確認ください。

【新人ボランティアのご紹介】

２０２１年度点訳ボランティア養成講習会(中級コース)を修了した６名の方が、２月から活動に加わりました。館内活動の制限により、同じグループでもまだ対面されていない方が多いと思いますが、ご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

★ 火曜日★

出会いを楽しみに！　　安達 恵美子(あだち えみこ)

この度、点訳ボランティアの一員として活動に参加できることを嬉しく思っております。

コロナ禍の中、家族が皆テレワークをしているのをみて、私も以前やっていた点訳をやりたいと思いました。ネットで講習会があるのを知り、申し込みましたが、表や図などの点訳は難しく、続けていけるのかと何度も思いました。

今、一冊目の本を預かり、サポートしていただきながら点訳しています。少しずつですが、前に進めていけたらと思います。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。また、これを機会にいろいろな方との出会いも楽しみにしています。

現在私がハマっているのは、パンダの楓浜(ふうひん)とハシビロコウのふたばちゃんの動画を視聴することです。コロナが終息したら会いに行きたい(旅行したい)なと思っています。

優しさにつつまれて　　前田 朱実(まえだ あけみ)

はじめまして。前田朱実と申します。講師の方の丁寧で楽しい講義と、受講生の皆さんの明るい雰囲気のおかげで、安心して講習期間を過ごすことができました。ありがとうございました。また、現在ご指導いただいている先輩方や職員の方々も大変あたたかく迎え入れてくださり感謝しています。

２０１８年の１１月に大阪市中央公会堂で開催された「ヘレン・ケラー女史と岩橋武夫」の催しで心を動かされ、日本ライトハウスでの活動を考えるきっかけになりました。点訳を通じて、様々な方に優しく寄り添っていけたら嬉しいです。

★ 水曜日★

もっとスキルを身につけたくて　　松山 千英(まつやま ちえ)

点字を勉強し始めてから８年ほど経ちます。当時は子どもが高校生になった頃で、時間に余裕ができたので何か習い事でも始めようかと考えていました。そんな時に区の広報で「点訳ボランティア養成講座」を見つけて受講し、そのままそのグループで点訳ボランティア活動を続けています。

所属しているグループでは毎年初心者向けの講習会があり、その方々が取り組みやすい課題本を共同点訳しているため、どうしても単純な構成のものばかりになります。スキルアップを図りたく、こちらの中級講習会に応募しました。

活動を始めた当初は「これで少しは人の役に立って死ねる」という気持ちでしたが、勉強し始めるとそれ自体が性に合っていると感じ、趣味のひとつとなっています。

点訳以外の趣味としては、週末に夫婦で金剛山をメインとした低山ハイクとバイクでのツーリングを楽しんでいます。

★ 木曜日★

多くの情報を届けたい　　市川 道子（いちかわ みちこ）

コロナで騒然としている中で、中級講習会に感染せずに最後まで出席できるか不安でした。電車もすいている車両を選びながら乗り、梅田から歩いて通いました。１月に修了したときはホッとしました。ズームでの講習会もいい経験でした。こういうことがないと経験できません。

以前は小説を中心に点訳をしていましたが、視覚障碍者の生け花教室のボランティアを始めて、いろいろな可能性があることを教えられました。そして、小説だけでなく、もっといろいろなジャンルを点訳し、情報を提供できたらと思うようになりました。また、今回の中級講習会を受けて、自分が「どうしたら理解しやすく点訳できるか」ということを忘れていたことに気がつきました。これから視覚障碍者に寄り添った点訳を勉強していきたいと思います。

★ 金曜日★

幅広く奥深い点訳に魅了されて　　越川 由美子（こしかわ ゆみこ）

私は、地元市主催の講習会の受講をきっかけに点訳を始めました。ステイホームの時期と重なり、好きな旅行にも行けなくなったため、自宅で黙々と練習に励みました。

もう少し理解したい、また、パソコン点訳を教えてもらう環境がなかったので、軽い気持ちでライトハウスの講習を受講しました。

しかし講習会は、私にとってはかなり高度な内容で、テストに落ちず最後まで受講するために、さらに勉強する時間を与えてもらいました。

点訳は幅広く、奥深いものであることも教えてもらい、私はまだ入り口を覗いている状態ですが、分かりやすい点訳ができるよう、少しでもお力になれるよう、マイペースながら勉強を続けていきたいと思います。

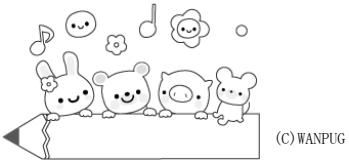
★ 土曜日★

点訳に興味を持ったきっかけ　　本岡 直樹（もとおか なおき）

妻が加齢黄斑変性症で右目が一時的に見えにくくなり、二度の手術を受けたことから、視覚障害に関心を持ちました。そのような時に川西市立中央図書館の点訳ボランティア養成講座入門編の募集（２０１３年秋）があり、点訳ボランティアを始めようと思いました。

図書館での活動は主に小説の点訳・校正と、プリントアウトされた点訳本の製本を行っています。ライトハウスでの点訳は多様な分野が対象なので、先輩の皆様方の指導を仰ぎながら、チャレンジ精神を持って分かりやすく間違いのない点訳を心掛けたいと思っています。

趣味は読書、音楽鑑賞（ＣＤ・レコードを聴く）です。以前は登山、旅行もしていましたが、登山は体力の低下で、旅行はコロナ禍で縁遠くなっています。あと、ふとしたきっかけで、年甲斐もなくトランペットを習いだし、下手なりに音を出すのを楽しんでいます。



【点字楽譜講習会レポート】

視覚障害の利用者から「点字楽譜を学びたいが、どうやって学習したらいいでしょうか」といった問い合わせがしばしばあります。残念ながら、気軽に学べる講習会や勉強会は少なく、独学を余儀なくされたり、個人講習を受けたり等の方法しかないのが現状です。

このように楽譜に関心を持つ、視覚に障害のある方を対象にした講習会が、２月にオンラインで開催されました。これまでに類を見ない新たな取り組みの様子を、参加した大下職員が報告します。（奥野真里）

(C)WANPUG

点字楽譜から広がる世界

点字製作係　大下 歩

２月１９日、「視覚障がい者のための点字楽譜入門講座」がオンラインでありました。主催は点字楽譜利用連絡会（点譜連）。講師は同会代表の和波孝禧さんと、副代表の加藤俊和さんです。ピアノやフルート、ギター、合唱など音楽をたしなむ視覚障がい者の方々や、盲学校の音楽の先生などが、全国から参加されていました。

取り上げられたのは、全音符から８分音符までのドレミや、オクターブの高さの表し方など。加藤先生が歌う「故郷」を聴きながら、事前にもらった資料の楽譜と照らし合わせていきました。点字楽譜についての前知識がなくてもわかる内容でした。

点字楽譜の成り立ちについてのお話もありました。ルイ・ブライユが点字の文字よりも先に楽譜を発明したことを初めて知りました。教会のオルガンを習っていたブライユは、楽譜を点で表す研究にのめり込みました。そしてなんと１４歳で、今の点字楽譜の基礎を作り上げたのだそうです。

質疑応答の時間はとても盛り上がりました。「サピエから楽譜をダウンロードしたが、記号が多くて読みにくい。もっとシンプルなものはないか」、「今度、ギターのサークルに入るのだが、そこで使われているタブ譜が、自分が学んできたものと違うので困っている」…。すでに点字楽譜を使っている方々から、現実的な質問が飛びました。それに対し、講師の方々のみならず参加者がアドバイスする場面も多く、「この後直接ご連絡します！」と参加者同士のつながりが生まれていたのも印象的でした。

私自身は点字楽譜を１０年以上前に少し学んだきりだったので、講座を聴きながら「そうそう、そうだった！」とうなずき通しでした。そして、もし楽譜がちゃんと読めたら、昔ピアノで弾いて大好きだったのにもう忘れてしまったメンデルスゾーンの「春の歌」をおさらいできるかな、と夢想していました。点字楽譜を学びたい人はまだまだたくさんいるはずなので、このような機会がこれからもあると良いなと思います。